

別紙 1 ALL ASIAN DXコンテスト規約改定についての意見 (JA)

コールサイン	主賛同案	自由記述
7N30EP	案4	<p>④6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を24時間開催。</p> <p>5. 理由</p> <p>(1) IARU Field Day SSBとのバッティング回避。</p> <p>(2) 9月第1週は残暑が厳しく、JA(日本国内)での参加者が屋外で運用すると熱中症などになるリスクが高くなります。特に、7月6m AND DOWN→8月フィールドデー→9月AADX電話部門と3か月連続での猛暑下での屋外運用をすると過酷と思われます。JAのハムが高齢化しているため、猛暑下での長時間運用で命の危険が迫る心配があります。※DX局は、日本の高温多湿の過酷さを必ずしも理解できているとは限らないので、この過酷さの説明が必要かも かもしれません。</p> <p>(3) JAでの参加者の場合、4アマでは電信部門に参加できません。</p>
JA0IXW	案2	<p>②日付けは現行通りだが、24時間開催とする。</p>
JA1BJI	案1	<p>①現行通りとし、何も変更しない。に賛同します。</p> <p>1) 開催時期および部門</p> <p>電話によりQS0するには電信と比較しより大きなS/Nの信号が必要ですが、夏至に近い6月第3週は電話によるDX QS0に適したコンディションとは言えず、現日程の9月第1週に比べて電話によるQS0がより難しくなると思われます。また、電信と電話(および電信電話)部門を同じ日程で開催した場合、電話に比べ弱い信号でもQS0し易い電信に参加者が集中する可能性があり、電話での交信局数が今まで以上に減少する恐れがあります。このため、開催時期および部門は現状のままとした方が良いと思います。</p> <p>2) 開催時間短縮について</p> <p>参加局数・交信局数の増減はソーラーサイクルの影響によるところが大きく、ソーラーサイクルピーク時期には電信部門においては36時間運用では短いと感じます。また、コンテスト期間中のコンディションは1日目と2日目でも大きく異なることがよくあり、開催時間を24時間に短縮するとコンテスト期間中にヨーロッパや北米等の特定のDX地域に対して交信のチャンスが1回しか無いためコンディションによってはこれらの地域と全くQS0できない恐れがあります。このため、開催時間は短縮せず48時間のままとした方が良いと思います。</p> <p>「⑥その他のプラン」</p> <p>1) ただし、時間短縮の要望も一定数あると思われるので、短時間のみ参加する局にとっても魅力あるコンテストとなるようシングルオペの各部門に48時間の開催期間のうち24時間での交信結果で競う24時間オーバーレイ部門を設けることを提案いたします。</p> <p>24時間オーバーレイ部門(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・途中1時間以上の休憩時間を何回でも取ることができる。(QS0がログに記載されていない連続した60分以上の時間を休憩時間とみなす。ログに記載されたQS0とQS0の間が60分未満の場合は運用時間とみなす。) ・休憩時間を除いた運用時間が24時間を超えた場合は、最初の24時間をオーバーレイ部門の得点とする。24時間オーバーレイ部門の得点にはならないが24時間を超えて運用しても良く、48時間部門と重複してエントリーも可能。 <p>AA DXコンテストは歴史が長くアジア局が主役となる唯一のメジャーコンテストであり、他のメジャーなDXコンテストと比較しても特にAA DX CWコンテストは参加者が多く成功しているコンテストの一つです。より魅力的なコンテストにして参加者を増やすために、開催日時や時間短縮等の観点だけではなく、以下の規約改定と結果発表の充実を要望いたします。</p> <p>2) アジア以外のDX局部門にもハイパワーとローパワー部門を設ける。</p> <p>3) 結果発表は、種目毎にWorld (Asia以外のみ)、大陸、Entity毎の順位を表示する。 (例: I47U・・・World #10, Europe #5, Italy #2等)</p> <p>4) 入賞局以外にもWebからダウンロード可能なPDFの参加賞を発行する。</p> <p>5) ドナーによる楯の贈呈を行う。(少なくとも全部門を通じた、アジアおよび各大陸の最高得点局)</p> <p>6) JARL WEB上で、過去も含めた結果を検索・ソートできるようにする。</p>

JA1CTZ	案1	<p>提示されているプランの中では①および③に賛同します。</p> <p>③については48時間の運用が辛いとのご意見がある事と、シングルオペでの48時間連続運用には健康上のリスクがある事から、③で提示されている「シングルオペ局の運用時間は36時間以内とする」ルールの追加に賛同します。</p> <p>他のプランに関しては規約見直しの目的、解決したい課題が意見募集の文面を見る限りでは不明なので賛同し難いです。</p> <p>②や④で提示されている24時間開催については、地域によっては参加しづらい日程になる事も考えられるので他の24時間開催のDXコンテストの状況を精査する必要があるかと考えます。</p> <p>④や⑤で提示されている電信・電話・電信電話部門を同時に開催する案については現状では参加者が電信部門に偏る恐れがあり、かえって電話部門の盛り上がりには欠ける事にならないかと危惧します。</p>
JA1KHV	案6	<p>⑥「その他のプラン」を推奨します。</p> <p>そのプランは「6月第3週に電信・電話・電信電話部門を48時間開催する」です。</p> <p>検討理由：本規程改定に対する意見募集は「48時間は長いか？」と「AADXを統一コンテストにするメリット・デメリット」に絞れると思われま。</p> <p>■「48時間コンテスト」は長過ぎるか？</p> <p>多様性の時代（他にやる事が有る）、コンテスト時間帯が広い方が参加出来るチャンスは広がります。</p> <p>特にポイントの高い局（地球位置の反対側）とは日本の生活時間帯がズレて居る事から運用時間が限られますし、お空のコンディションの良い時間帯、バンドが長時間の方が選択し易いです。</p> <p>48時間の参加は長過ぎて辛いとの意見が有る様ですが、何もフル参加を強要して居る訳で無いので、自分に合った参加をすれば済む事と考えますで意見には成らないと思います。力を抜いて参加ください。</p> <p>■AADX-CWとAADX-PHを一体化したら。</p> <p>JARLはデータ処理に楽になるのでしょうか、JARLが気にしている延べ参加局は半減するでしょう。</p> <p>でも参加満足度をキープするなら一体化してもコンテスト時間は48時間は必要で、24時間制に短縮すれば、参加局はより減ると考えられます。</p> <p>■何故、参加者が少ないか？</p> <p>英語圏以外の国の参加局の英語は、日本局同様、聞き取り難いです。また最低のハム英語の活用（度胸も含め）の教育（自主努力も含む）されて居ないので、参加を控えている局が多い事も知ってます。</p> <p>次にSNS等の発達が有りながらAADXコンテストの存在が効果的に広報出来て居るのでしょうか？</p> <p>海外のコンテスト情報などは良く見ますがJARL英語版は見た事が有りません。また、参加する魅力が感じられなければ参加局は少ないままです。電子参加証（コストも掛からない）の発行等、魅力付けが必要かと思います。</p>
JA1XCZ	案2	<p>②日付けは現行通りだが、24時間開催とする。②に賛成です、ナンバーはAAの特徴である年齢で良い。</p>
JA2JWH	案4	<p>④6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を24時間開催とする</p> <p>自由記述：</p> <p>近年参加局が少なくなっているのは肌で感じており、相手局の少なさがモチベーションにも影響して興味も薄れてきている。</p> <p>また、48時間と言う時間も体力的に厳しく、以前のように絶えず交信相手がいれば意欲が湧くがワッチ時間が長くなるだけの現状では変更もやむなしと考える。</p>
JA6ACZ	案5	<p>⑤開催日は6月第3週末00UTCから48時間、電信・電話・電信電話3部門の同時開催を希望します。</p> <p>アジア同志のQS0もポイント、マルチにしてください。伝播的にアジア以外が困難な1.8/3.5もやり甲斐がでます。</p> <p>参加賞(PDF)を出し、5回、10回参加でステッカーをプレゼントする。</p>
JA6GCE	案6	<p>⑥9月のphoneは6月第1週に開催 運用時間は現行通り</p> <p>理由 9月のphoneはIARU FD SSBと重なり呼ばれてもSerial Noを送ってくるのでコンテストが成り立たない。</p> <p>6月の第1週はTisza Cup CWが開催されるが大学のラジオクラブ、レジャースポーツクラブ、市議会主催で小規模なので影響は少ないと思われる。</p>

JA7KHQ	案6	<p>⑥6月のCW開催時期と4月開催のオールJAコンテストの日程を交換していただきたい。 理由：オールJAコンテストが4月だと50MHzバンドのEsオープンがほぼ期待できませんが、6月だとEs最盛期のためオープンの可能性が非常に高まりコンテストが盛り上がると思います。 逆に、DXの場合は夏至が間近な6月は例年HFコンディションが低下してしまいます。4月の方が多くのDXの入感が期待できます。 国内・DXそれぞれのコンディションに合致した開催時期にしていきたいと考えます。</p>
JA7MCB	案1	<p>①現行通りとし、何も変更しない。 【理由】 参加局数については、JA局はAADX CWで全体の30.7%、AADX PHで全体の35.3%である。 PH参加局の割合はCWより多い。一方、総合計交信数はCWが全体の32.4%、PHが全体の26.3%とCWより少ない。このことは、CWIは運用補助機器が充実しており、レポート交換に手間取らないことが考えられ、短時間の交信が可能であるためと考えられる。一方PHは、参加国地域によりDX局のアクセントや発音の癖があり、聞き取りにくい場合が多い。これはJA局に対しても同様であり、このような点がJA局がAADX PHへの参加をためらう要因ではないかと推測できる。また、JA局が AADX PHへの交信参加しても、ログ提出しない局も相当数いるに違いない。 今回のJARLの集計結果は、ログ提出した局のみと推察できるので、AADX PHへの交信参加局を網羅しているものではない。 規約改定の理由に「EU圏の参加局が少なく、48時間の運用が辛い」ことを挙げているが、「48時間連続で運用しろ」とJARLは推奨していないと思うので、この理由は意味がない。 EU圏以外の参加局が数多くいるに違いない。 また、JA局の平均交信局数、優勝局の交信数を挙げているがどのような意味なのかかわからない。JARLとして、平均交信局数や優勝局の交信数に目標値があるのか？あれば明示してほしい。例えば、「交信局数が50局以下の局は最終参加局に認めない」とか、「1500局以上交信数の局のみに入賞の権利を与える」とか。 よって、AADX PHの開催時間は現行通りの48時間とし、JARLとしてより多くのJA局にAADX PHへの交信参加並びにログ提出を広報することが規約改定の事前段階としてなすべき業務ではないか。 AADX PHのコンテスト規模の縮小を考える前に、JA局並びにDX局への参加を促し、当該コンテストを盛り上げることが先決である。 意見提出資格に、「AADXは海外局の参加が国内の2倍あり、今年はWRTC 2026出場権をかけた選抜にAADXが選ばれて世界的にも注目されており、…」とあるが、コンテストが縮小されれば、このAADX PHコンテストは格下げされることは確実であろうことを最後に付け加える。</p>
JA8RWU	案6	<p>⑥・基本的に現行通りで以下の変更を加える。 ・国内(同一エンティティ)同士もポイント有効とする。 [理由]他の国際コンテスト(CQWWPX, IARU HF Championship, ARRL10m, RSGB IOTA)等と同様に同一エンティティもポイント有効にし、特に日本は大票田であるヨーロッパ、北米から離れている地域性を考慮しシンプルアンテナ等でも多くと交信可能なことにより活性化を図る。またコンディションの良し悪しに左右されず一定の交信機会が増大する。前記他の国際コンテストへの参加経験と自身のシンプルアンテナ参加からもそのように強く実感しているところです。 ・24時間エントリーをOverlayカテゴリーとして追加する。CQWW, CQWPXと同様の趣旨。 ・ナンバーとマルチについても一考の余地があると考えますが、まず上記の変更を実施してみることで考えました。年齢ナンバーはユニークでありYOTAコンテスト以外には殆どない貴重なものであり、毎年元気に頑張っているアクティブOM各局やニューカマーのYMなどの様子を楽しみに参加しています。 ・なお、その後のナンバー・マルチの変更については、前述の他国際コンテストを参考に考え、日本の地域性とコンディション良し悪しにかかわらずや弱小設備でもある程度楽しめるようなことを考えればと思います。 ・変更例としては、ナンバーを「ITUゾーンとしマルチに追加する」「GL(グリッド・ロケーター)としマルチ計上および2局間の距離の大小によるポイント重み付けを行う」などです。 ・何れにしましても参加しやすくなる、より多くの局とQSOできる、楽しいこと(呼ばれない, 呼んでも届かないの逆)に少しでも近づき参加者の増加が見込めることを目指せば良いと思います。</p>
JA9ILH	案5	<p>⑤6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を48時間 開催する。(シングルオペ局の運用時間は36時間以内) 5.理由：コンディションの変化や、多くの局の参加を得る為、2日間が望ましいが、48時間フル参加は個人局にはつらいと思われるため。</p>

JA9SCB	案6	<p>変更するとすれば、DXコンテストでは、電信部門と電話部門を分けて開催するのが一般的であり、④や⑤には賛成できません。ましてや電信電話部門を設けるなどは、DXコンテストとしては聞いたことがありません。</p> <p>また、全世界の時差を考慮すると②の「24時間開催」や中途半端な案③「シングルオペのみ36時間開催」にも賛成できません。</p> <p>したがって私案として⑥ですが、電信部門はこれまで通り6月の第3週末の48時間に開催とし、電話部門を9月の第3週末に移動して、48時間開催することを提案します。</p> <p>9月の第3週末に開催されているDXコンテストは、「Scandinavian Activity Contestの電信部門」であり、AADXコンテストの電話部門をここに移動しても混乱は少ないと思われます。またここに移動することで、コンディションも秋に近づき、今よりは良くなることが期待されます。</p> <p>なお、「10月の第2月曜日の前々日の21時～前日の21時まで」開催される全市全郡コンテストと時期が接近しますが、もとよりAADX 電信部門は6m&Downコンテストに近いという実績もあること、AADXコンテストの運用周波数がHF帯であることもあり、全市全郡コンテストにVUSHF帯で参加される局などには影響は少ないと思われれます。もし提案する⑥が不相当ということであれば、第2案として、現状通りの①に賛同します。</p>
JE1ALA	案6	<p>⑥その他のプラン：9月の電話部門は「IARU Field Day SSB」とバッティングしてヨーロッパ圏の参加局が少ないとのことゆえ、6月に電信と電話部門を同時開催、開催時間はダラダラやるのが好きなので土曜09:00JSTから月曜08:59JSTの48時間フル開催(運用時間制限なし)で、非アジア局の交信相手はアジア局のみ、アジア局/JA局の交信相手は自国含む全世界、これでこそ「オールアジア」でしょう…</p>
JE1RXJ	案1	<p>①現行通りとし、何も変更しない</p> <p>理由：時代の移りかわりとともに時代に合わせたより参加しやすい方法を検討することは、とても良いことだとは思いますが、しかし長年積み重ねた歴史もあり、また運用者の遊び方も多種多様であり、日々嗜好も変わっていきます。</p> <p>現行の時間数をはじめ、ルールの改悪は不要と考えます。HFバンドの伝搬のおもしろさも時間制限で失われます。</p> <p>残念なことに過去のルール改正で、年齢をナンバー送ることが必須でなくなりました。</p> <p>お互いの年齢を伺いながら、相手の年齢を聞いて自分の今後の糧となるような意識も生まれて、自分もこの年までは頑張ろうとか、この年齢で48時間頑張っているOMを誇りに思います。</p> <p>今でも年齢ナンバーを送る方々が多いのも、そこが面白いのです。</p> <p>それこそ自己鍛錬の場だと思います。</p> <p>先ほども嗜好と書きましたが、phoneが好きの方嫌いな方、同様にCWが好きの方嫌いな方もおられるわけですので、同時開催なども、All JAのように、カテゴリ別エントリーも考えられますが、私個人としては好きな方の部門に出るわけです。当然時期も違うので、面白いわけです。</p> <p>優勝を目指さないけどコンテストを楽しむという方々もいられると考えます。</p> <p>せめてサイクル25の終焉と思われる次期、または参加局数(参加ログ提出局数)の動向も見ながら、さらに検討を重ねていくことが今現在の現行通りで変更なしの意見の理由です。</p>
JE1SLP	案1	<p>①. 「現行通り変更しない」に賛成</p> <p>CW/PHONE合体について</p> <p>当方、PHONEだけが勝算があり、個人的には大ファンです。ですが、事務局の集計労力等を考慮すると、次の⑤にやむなく賛成します。</p> <p>⑤. 「6月の第三週に、電信・電話・電信電話部門を48時間開催し、シングル0局の運用時間は36時間以内とする。」</p> <p>にやむなく賛成したいのですが、PHONEの醍醐味を残す為、</p> <p>1日目・・・CW</p> <p>2日目・・・PHONE & 36時間運用 を提案します。(MIXにするとPHONE参加者がさらに減少する為)</p> <p>ただし、3部門全部にエントリー可能としたいです。(入賞局は近似するが)</p> <p>当方、CWが苦手で、N1MMのCW機能を使わないPHONEが大好きです。AA-PHONEは、国内コンテストと違って、QS0がスムーズで大好きです。</p>

JE4XWS	案6	<p>⑥その他のプラン 月第3週に電信・電話・電信電話部門を36時間開催する。 理由 電信部門と電話部門に分かれていたので、両方に参加することが負担。 どちらかのみ参加(当局は電信のみ)という方も多いのではないかと。 電信電話部門が出来れば、参加の選択肢が増える。 電信電話部門が出来れば、少なくとも24時間以上の運用時間が必要ではないかと。 国内コンテストなら24時間でコンディションの公平が保たれるが、DXなので24時間から～48時間となる。 電信もしくは電話であれば、48時間でなくても良い。 電信電話部門の配慮として12時間運用時間を増やせば、負担も少ないのではない。 シングルオペ、マルチオペで運用時間に差を設ける必要はないのではない。(他のJARL主催コンテストでは同一)</p>
JF2FIU	案5	<p>④6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を24時間開催する。 やや賛成 下記⑤の案に関係します ⑤6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を48時間開催し、シングルオペ局の運用時間は36時間以内とする。 この案に賛成です 「理由」 外国の主催コンテスト開催規約では、シングルオペは”36時間制限”となっていることが多く、これに倣ってJARLもDXコンテストは右にならえがDX局にも理解されると思います ・CW ・PH ・MIX と3部門で同日開催すればどうでしょうか？ (募集意見とは少し趣旨がズレますが) と言うことは9月の第1週は空きになるので、以前から問題になっている政府環境省が発している”熱中症警戒アラート”が多少は和らぐであろうこの時期にフィールドディを引越越させるという案です このアラートが発生されやすい8月の灼熱の日に無理に移動運用して”重大事故”が発生しない前に規約を変えて安全なFDコンテストが開催されることを希望します ご承知の通り、昭和や平成の初め頃の気候とは現代の令和では、もう変わってきております ”暑い夏こそFDだ!”と、言われる参加者も多いとは重々承知しておりますが、”自己責任”と言われればそれまでです、しかし政府が警鐘している熱中症アラートを軽視せずに主催者として安全な企画開催される立場として英断をお願いします ⑥その他のプラン また、この案ですと8月の従来FDの日程が空くことになるのでJARL100年の何らかのイベントもいいのではないかと思います・・・ ⑦自由記述 9月上旬は教育機関にて定期試験期間と外れている可能性が高く高校、大学等の社団も参加しやすくなるのではないのでしょうか？</p>
JF2QNM	案6	<p>1. コピーしがいのあるコンテストナンバーへの変更 現在年齢⇒AJAナンバーを英数字3ケタにて割り振り、RST+AAAとし、マルチプレイヤーとする。 理由：現在年齢をコピーしておりますが苦勞してコピーしても、マルチにもならないし全く苦勞が報われないので、変更ください。 またAJAアワードという集めがいのあるアワードを全世界のアワードハンターに取り組みでいただくことで、JARLの収益改善のアイテムとする。(イメージはLOTWのDXCCやWPXアワードのように、申請数によって手数料申請形式がよい) 2. コンテスト開催時間 48時間⇒24時間がよい。JST 21時-21時がよい。(EUとの交信数関係より) 理由：高齢化により48時間コンテストは非常にづらい。 3. 開催日 6月15, 16日⇒6月最終週末へ変更 理由：6月15, 16日 同時開催コンテスト数11個⇒6月末：2個 WA7BNM Contest Calendar: 12-Month Calendar 4. 楯の贈呈 ARRLの様にドナーを積極的に募集するべき。 5. JAの参加数増加 コンテスト講座などをZOOMなどを使って定期開催するとか、トップコンテスター出演によるYOUTUBEへの投稿</p>

JF3DCH	案5	⑤6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を48時間開催しシングルオペ局の運用時間は36時間以内とする、に同意します。 補足として、デジタル部門、特にFT8を是非加えていただきたい。
JG1RRH	案4	④「6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を24時間開催する。」のプランに賛同いたします。 【理由】 コンテストの楽しみは、短時間で多くの局と交信できることにあります。 大きな設備を持たない局であっても、普段はなかなか交信できない地域と交信できる機会でもあります。 開催時間を短くすることで運用する局の集中化が図れ、多くの局との交信が期待できます。 また、電信・電話・電信電話部門の同時開催とすることで、電信と電話の切り替えながら効率の良い運用ができ、オペレーターの負担軽減になると考えられます。 開催時間を短くすることで、開催当日に仕事や家族との予定が入っている人にとっては、参加可能時間が短くなってしまうことも懸念されます。 しかし、短い参加時間でも「24時間開催」という枠の中に多くの参加者が集まれば、短時間の参加であっても楽しめると思います。
JG1UQD	案1	7) 9月電話の日付を 前後に変更する(基本的には現状通りで何も変更しない。)
JG2CNZ	案5	⑤ 6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を48時間開催し、シングルオペ局の運用時間は36時間以内とする。に賛同します。ただし、シングルオペ局の運用時間制限は不要かと思えます。 ⑦自由記述 電信と電話の同時開催により、他の案に比べてコンテストの活性化が期待できるから
JG3DHN	案1	⑦自由記述 コンテスト時間は48時間から変更しない 理由：「48時間の運用が辛い」との意見があるとのことだが、すべての時間に参加する必要はない。自分の都合がつく時間だけ参加しやすいという点からも、コンテスト時間は短くするべきではない。 電信部門と電話部門は別に開催する。 理由：同時開催すると、電話での交信機会が少なくなることが予想される。
JG3GMG	案4	④6月の第 3 週に電信・電話・電信電話部門を 24 時間開催する。を支持する。 支持案以外の案に対する考え方は次のとおり。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">詳細は添付 PDF1 参照</div>
JG5JXW	案2	②日付けは現行通りだが、24時間開催とする。を希望 理由：日付については別の日でも構わないが、CWとPhoneで今まで通り分けてもらう方が一方に注力できる 開催時間は48時間だと、土日の休みが全て潰れてしまうため24時間を希望します。 意見取りまとめ、規約改定大変かと思えます。
JH1ASG	案5	⑤6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を48時間開催し、シングルオペ局の運用時間は36時間以内とする。 に賛成します。 【理由】 以前、ハムフェアとAA DXコンテストPHの日程が重なり、「AAフォーンに参戦する者は、ハムフェアに出るな、と言うのか!」と深く憤りを感じました。 6月にCW, PH同時開催ならば、ハムフェアのことは心配なくて済みます。 加えて、個人が48時間参加可能とするよりも、CQ WW WPX CONTESTのように、36時間Maxとすれば、肉体的・精神的負担は軽減されます。 CW, PH同時開催とすれば、AAコンテスト自体、盛り上がりと思います。 これらに鑑みて、⑤に賛成します。

JH1MTR	案4	<p>②24時間開催とする 特にJA局の参加局数の状況及び年齢構成の分布の考察から</p> <p>④6月第3週に3部門同時開催で可</p> <p>⑥24時間とした場合、開始時刻を土曜日の夕刻にして、日曜日の運用可能時間がフルになるよう考慮の必要。</p> <p>⑦24時間開催として、要は時間当たりのQS0レートをよりスプリント型に目指すべきと。</p>
JH200U	案4	<p>④6月の第3週にCW、Phone、MIX部門を24時間開催する。</p>
JH4UTP	案6	<p>All Asia DX の規約改定を歓迎します。 複数回の上位入賞経験者として、下記の改定の採用・実施を強く希望いたします。</p> <p>⑥その他のプラン</p> <p>6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を48時間開催。 シングルオペ局の運用時間も48時間以内。 理由1) 2022年9月10日にお送りした意見を下記に再掲します。 All Asia DX を、6月第3土日に CW , Phone , Mixed の3部門で開催していただけないでしょうか。 9月第1土日のコンディションは毎年芳しくありません。 本年も我慢比べのような、つらく長い48時間でした。 加えて Region 1 Field day SSB が同じ時間に開催されています。 どちらのコンテストに参加しているかわからず混乱しました。 一方 All Asian CW の6月第3土日は、毎年伝搬も良好です。 SSB の全世界対象の競技もありません。 6月第3土日に CW, Phone, Mixed の3部門で開催すれば、より楽しく多くの参加が期待できると考えます。 理由2) シングルオペ局も48時間運用可能とし、CW Phone Mixed の3部門とすれば、現状以上の参加局と交信数が期待できる。 理由3) 36時間開催は、3週前の WPX CW と規約が似通ったものとなり、ALL ASIAN の特徴が失われる。 理由4) 24時間開催は、3週間後の IARU HF と同一となり ALL ASIAN の特徴が失われる。</p>
JH5GHH	案6	<p>各案について私の意見を記述する。 下記ルールを提案する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>詳細は添付 PDF2 参照</p> </div>
JH6RFT	案1	<p>①又は⑥ (6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を48時間開催)</p> <p>理由: CWが苦手な当局にとって電話部門は、唯一入賞の可能性のある部門です。是非とも電話単独部門は残して欲しいです。 DXコンテストですので公平性の点から48時間開催が妥当だと思います。</p>
JH6WHN	案6	<p>⑦自由記述 今回は、開催日と電信と電話を同一日に開催とする大幅ルール改正の提案がされています。</p> <p>意見を広く聞き、ルール変更を行う場合は周知期間を十分にとれるよう、2026年以降の変更としていただきたい。</p> <p>今年度からコンテストナンバーのルール変更が行われています。</p> <p>短期間でルールの変更は、混乱し参加局が減少する原因になると考えます。</p> <p>1. 主催国であるJAの参加局が増加するような検討が必要ではないか。 AAコンテストがHF+6mであるALL JAの参加局数の半分以下であるのはなぜか。 国内コンテストに参加しているがAAコンテスト (DXコンテスト) に参加しない局に意見を聞いてほしい。</p> <p>2. AAコンテストの常連参加の海外局にも意見を聞く必要があると考えます。</p> <p>以上の事から、手間はかかりますがWeb上に国内局、海外局アンケートページを作成し、ここ数年JARL主催コンテスト参加局にメールを送り、意見を聞いていただきたい。 その結果を元に時間をかけてルール変更を検討していただきたい。</p>

JI0VWL	案4	<p>④ 6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を24時間開催するに賛同。 ・土曜日UTC00:00-日曜日UTC00:00 または ・土曜日UTC09:00-日曜日UTC09:00 電話部門に人気がないのと参加者数減少のため、同時開催でさらに開催時間を半分にすると効率良いと感じる。 また、同一局との交信で電信と電話どちらも得点になるようにすると電信電話部門局の電話運用時間が増えることが期待でき、電話の過疎化が多少改善されるかもしれない。</p>
JI3KDH	案1	<p>①現行通りとし、何も変更しない。…直接の回答としてはこれになります。理由：他のいずれの案も、縮小こそすれ残念ながら参加者の増加に直接寄与するとはとても思えないからです。それでもあえて選ぶなら③はなくもないかなとも思いますが、審査の手間が増えるのは審査委員の皆さんが望んでいらっしゃるのでは？ ⑦自由記述 このコンテストの特徴でもあるというのは理解しているつもりですが、交換するコンテストナンバーがオペレータの年齢というのは、もはや時代にそぐわないものではないでしょうか。しかも嫌なら01を送れというのも、公平性などを考えますとおかしな話に感じざるを得ません。 個人的にDXコンテスト大好きな私ですが、中高生の時代ならいざ知らず、このルールがネックで当該コンテストには長らく参加させていただいておりません。 あっさり001形式にでもしていただければ、競技性が増して参加者も増えるのではないかと思うのですがいかがでしょうか。</p>
JK1JHU	案6	<p>⑥その他のプラン 「9月の電話部門は廃止して、代わりとなり引き継ぐ新たなコンテストを開催する。」 以下、その趣旨の説明として下記⑦自由記述とします。</p> <div data-bbox="1057 657 1563 743" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>詳細は添付 PDF3 参照</p> </div>
JK2VOC	案6	<p>⑥その他プラン 6月の第3週に電信・電話・電信電話、RTTY部門で48時間で開催する。 また運用時間の制限は無し。 同一局との交信は、バンド、モードが変れば得点可とする。 ⑦ 同一日にて電信、電話、RTTYを同時に開催する方式は、ARI（イタリア連盟主催）のARIコンテストでの開催実績がある。 同一バンド内でも電信、電話、RTTYが異なれば重複交信可とすると活性化されに賑わうと思います。</p>
JM1QPR	案6	<p>⑥その他のプラン これまで通り、SSB・CWそれぞれ48時間コンテストとして実施することを希望する。 そのうえで、時期をもっとDX向きの春・秋に変更して欲しい。 現状は特に6月のCWが夏型のコンディションの時期で極めて良くない。 9月のSSBの時期はそれに比べると多少ましと思うが、さらに後の時期にずらすことが望ましい。 そもそもDX向きのコンディションでない時期に開催され、バンドが開けずに楽しめないことが、国内参加者が増えない大きな要因のように強く感じられる。 コンディションが悪い時には一般的な国内局の出力である100WではCQを出しても気づいてすらもらえず、呼びまわり局ばかりになってしまうことも、国内局の平均的な交信局数が低くなる原因である。 一方で、海外局は毎回楽しみに参加して下さっているのが感じられるので、もっと国内局が多数サービスできるような状況が望ましいと思う。</p>
JM4MGM	案5	<p>⑤プランで開催 ⑦自由記述 ・電信電話部門の同時開催で交信局が増えることが期待できる。 ・電信、電話の交信をそれぞれ有効にすることで電信、電話どちらも盛り上がる ・部門内に短時間部門(ハーフや12h程度)を設ける ・トライバンドを設けることでマルチバンド、シングルバンド以外でも楽しむ。 ・ナンバーの変更は特に必要なし00や01ナンバーについては考える必要がある。 ・AADXで毎回多くのJAに呼ばれるが、JA同士の交信は現状のまま無効が良い。 ・6月に電信、電話部門を開催することになった場合、8月開催のFDコンテストを今のAADX電話部門開催の日に移動し、8月にDX、JA対象のデジタルコンテストを開催してはと提案します。</p>

JM7SKE	案5	<p>⑤ 6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を48時間 開催し、シングルオペ局の運用時間は36時間以内と する。に賛成します。 国際コンテストは、48時間で行われるのが一般的であり、マルチオペを考えると、体力も含めてコンテスト参加だと思います。大変なことをやり遂げることで、やはり達成感があるのだと思います。特に若手は、ベテランほどの実力はなくとも、体力はあるので、その点、同じ土俵で勝負を楽しめるのではないかと思います。</p> <p>5. その他</p> <p>①国内外で様々なコンテストがありますが、特に国内の分も精査していくことも考える時期ではないでしょうか。その方がかえって参加局を増やすことにつながると思います。コンテスト委員会では、特に各支部主催のコンテストを、国際コンテストの開催も見ながら、整理していくことも必要ではないかと思ひます。</p> <p>②AAのコンテストナンバーについては、法則性が乱れたことから、01のナンバーは改悪としか思えません。00に戻すべきと考えます。もちろん7歳くらいまでは参加者はいないと思ひますが。</p> <p>③6月は、DX的には、夏枯れに近い状態でもあります。なかなか難しい時期ですが、DXを盛り上げるためにも、この時期でもよいかと思ひます。そういった点では、48時間にしないと、夜のパスを使えず、もったいないと思ひます。</p>
JR2PZX	案5	<p>⑤ 6月第3週に、電信・電話・電信電話部門を48時間開催し、シングルオペ局の運用は36時間以内とする。に賛同する 理由：9月開催は他のコンテストとの重複がある、また参加局の高齢化もあって、個人局の運用時間を短縮することに賛同します。</p> <p>5.その他 電信電話部門を開催するなら、電話QS0の得点を上げて欲しい。 最近のコンテストは、電信については、インターネットからの情報により、交信数を増やすツールが多々あり、またほとんどの局はPCを利用しての送信をしていると考えれば、音声を発生する電話より疲労の点で、長時間運用の負担は少ないと思う。 これが電話参加局が少ない一因とも思われる。 電話QS0を増やす意味で、電信電話部門を開催するなら電話QS0の得点に優位性を設けて欲しい</p>
JR4XME	案2	<p>②日付けは現行通りだが、24時間開催とする。</p>
JS10YN	案5	<p>⑤6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を48時間開催し、シングルオペ局の運用時間は36時間以内とする。 について、「6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を48時間開催」には賛成、「シングルオペ局の運用時間は36時間以内とする」には反対する。「シングルオペ局の運用時間は48時間開催」としてほしい。</p> <p>理由：</p> <p>1. 「6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を48時間開催」賛成の理由 9月の電話の時期のコンディションが良いことがあまり無いことやEUのFDと重なることで電話を6月に移すことに賛成である。また電信・電話・電信電話という新しいカテゴリー分けに新鮮さを感じられるので、やってみることは良いことだと思う。電信電話の場合は、同じバンドで同一局でも電信、電話それぞれに得点は与えられるようにしてほしい。</p> <p>2. そもそもオールアジアコンテストが当初24時間であったのが48時間開催になったのは、W/EUに対するQS0のチャンスを増やすためであって、これは継承するのは良いことだと思う。案⑤でなぜ「シングルオペ局の運用時間は36時間以内」としているのかわからない。シングルオペ局の運用時間は48時間とすることは何ら問題無いと考える。</p> <p>要望： AA DXコンテストだけLGR (Log Check Report) をいただけないのはなぜでしょうか。是非出していただけるようお願いいたします。</p>

⑦自由記述

・「④6月の第3週に電信・電話・電信電話部門を24時間開催する。」場合であってもコンテストの開始時間には一考を要する。

・コンテストナンバーについて

▶年齢送出をおこなわない場合の「00」が「01」に変更されたが十分に周知されたとは言い難い。

▶マルチとも連動していないことからJA局については都府県支庁略称（新設が必要）、DX局にあってはCQ Zone、ITU Zone または001形式とすることを提案する。

・得点

▶電話による比重を高くするため各バンドにおける得点を例えば電信の2倍とする。

▶電信・電話双方でのQSOを得点とする。

・マルチプレイヤーについて

▶総ての局において、各バンドで交信した局の「WPX コンテストルール」による異なるプリフィックス数に統一する。

【参考】都府県支庁番号・略称一覧表

都府県支庁番号・略称一覧表

県名	JARL	KCJ	厚労	車両	繊維	漁船	県名	JARL	KCJ	厚労	車両	繊維	漁船	県名	JARL	KCJ	厚労	車両	繊維	漁船
北海道	-	-	HK	-	HK	HK	新潟県	08	NI	NI	NGN	NG	NG	兵庫県	27	HG	HG	HG*	HG	HG
(宗谷)	101	SY	-	-	-	-	長野県	09	NN	NA	NNN	NN	NN	富山県	28	TY	TM	TYT	TY	TY
(留萌)	102	RM	-	-	-	-	東京都	10	TK	TY	TK*	TK	TK	福井県	29	FI	FI	FI	HI	FK
(上川)	103	KK	-	-	-	-	(小笠原)	48	OG	-	-	-	-	石川県	30	IK	IS	IKI	IK	IK
(オホーツカ)	104	OH	-	-	-	-	(南島)	MT	-	-	-	-	-	岡山県	31	OY	OY	OYO	OY	OY
(空知)	105	SC	-	-	-	-	神奈川県	11	KN	KN	KN*	KN	KN	島根県	32	SN	SM	SN	SN	SN
(石狩)	106	IS	-	-	-	-	千葉県	12	CB	CB	CBC	TB	CB	山口県	33	YG	YA	YUY	YK	YG
(根室)	107	NM	-	-	-	-	埼玉県	13	ST	ST	ST*	ST	ST	鳥取県	34	TT	TT	TTT	TT	TT
(後志)	108	SB	-	-	-	-	茨城県	14	IB	IB	IGI	IG	IG	広島県	35	HS	HS	HSH	HR	HS
(十勝)	109	TC	-	-	-	-	栃木県	15	TG	TC	TGT	TG	TG	香川県	36	KA	KA	KAK	KG	KA
(釧路)	110	KR	-	-	-	-	群馬県	16	GM	GU	GMG	GM	GM	徳島県	37	TS	TK	TST	TS	TO
(日高)	111	HD	-	-	-	-	山梨県	17	YN	YN	YN	YN	YN	愛媛県	38	EH	EH	EH	EH	EH
(胆振)	112	IR	-	-	-	-	静岡県	18	SO	SZ	SZS	SO	SO	高知県	39	KC	KO	KCK	KC	KO
(檜山)	113	HY	-	-	-	-	岐阜県	19	GF	GI	GFG	GH	GF	福岡県	40	FO	FO	FOF	HO	FO
(渡島)	114	OM	-	-	-	-	愛知県	20	AC	AI	AC*	AT	AC	佐賀県	41	SG	SG	SAS	SA	SA
青森県	02	AM	AO	AMA	AM	AM	三重県	21	ME	ME	MEM	ME	ME	長崎県	42	NS	NS	NS	NS	NS
岩手県	03	IT	IT	ITI	IT	IT	京都府	22	KT	KY	KTK	KT	KT	熊本県	43	KM	KU	KUK	KM	KM
秋田県	04	AT	AK	ATA	AK	AT	滋賀県	23	SI	SI	SIS	SG	SG	大分県	44	OT	OI	OT	OI	OT
山形県	05	YM	YG	YA	YG	YM	奈良県	24	NR	NR	NRN	NR	NR	宮崎県	45	MZ	MZ	MZ	MZ	MZ
宮城県	06	MG	MG	MGM	MG	MG	大阪府	25	OS	OS	OSO	OS	OS	鹿児島県	46	KG	KG	KOK	KS	KG
福島県	07	FS	FS	FS	HS	FS	和歌山県	26	WK	WA	WKW	WK	WK	沖縄県	47	ON	OK	ONO	ON	ON

厚労 : 犬の鑑札、注射済票に使われるもの 都道府県名または都道府県名を特定できるものとして厚生労働大臣が定める文字、数字等
 車両 : 国際ナンバープレート (* 陸軍支局ごとに異なる)
 繊維 : 繊維製品品質表示表示者番号
 KCJ : 全国CW同好会 (KCJ=Keymen's Club of Japan) 主催のコンテストに用いられるもの
 漁船 : 漁船登録番号の識別標 漁船

【出展】 <https://4b3.hatenablog.com/entry/20140311/139455560>

・その他の事項

▶DX コンテストとしてARRLやCQWWなどのコンテストと互換性のあるものとされたい。

▶WRTC 選抜対象コンテストとしてそれに相応しいものであることを願います。

▶コンテスト結果の公表は他催のコンテストに比して著しく遅延することの無いようにされたい。

▶2026年6月にJARLが創立100周年を迎えることから記念行事の一つとして本コンテストの改正を提案されたい。

謝辞

コンテスト委員会の皆さまにおかれましては、ご多忙の中、意見募集していただきましたこと御礼申し上げます。

1. 提出日：2024 年 7 月 30 日
2. JH5GHM
3. 氏名：一
4. 意見内容

各案について私の意見を記述する。

- ① 現行通りとし、何も変更しない。

受け入れられない。

現行通りでは何の改善にもならないため変更を希望する。変更内容はその他プランにて。

- ② 日付けは現行通りだが、24 時間開催とする。

受け入れられない。

- ③ 日時は現行通りだが、シングルオペ局の運用時間は36 時間以内とする。

受け入れられない。

- ④ 6 月の第3 週に電信・電話・電信電話部門を24 時間開催する。

受け入れられない。

- ⑤ 6 月の第3 週に電信・電話・電信電話部門を48 時間開催し、シングルオペ局の運用時間は36 時間以内とする。

受け入れられない。

- ⑥ その他のプラン

下記ルールを提案する。

- A. モード毎に開催日時は現行のままとする
- B. CQ WWあるいはCQ WPXのようにoverlayで24時間部門を設ける
- C. シングルオペは48時間運用可能
- D. 国内局同士のQSOもポイントとして認める
- E. コンテストナンバーは4桁のグリッドロケーター
- F. ポイントは下記の通り扱う(ポイントの適用の優先順位は記述順)
 - ア. アジア局は全世界とのQSOでのポイントが有効

イ. アジア局以外はアジア局とのQSOでのポイントが有効

ウ. 1点: 相手局と同一グリッドロケータ内

エ. 1点: 相手局とのグリッドロケータの中心間の距離が3000km以内

オ. 2点: 相手局とのグリッドロケータの中心間の距離が8000km以内

カ. 5点: 相手局とのグリッドロケータの中心間の距離が12000km以内

キ. 8点: 相手局とのグリッドロケータの中心間の距離が16000km以内

ク. 10点: その他

G. マルチプレイヤー

ア. 各バンド毎にポイントが有効となるQSOの異なるグリッドロケータ数の和

H. 得点

有効なポイントの合計とマルチプレイヤーの合計の積

I. ログの提出期限

コンテスト終了日時から5日以内

J. ログの扱い

提出したログはすべてJARLのweb上で公開される

⑦ 自由記述

その他のプランについて提案理由を記述し、最後にその他のコンテストについての意見も合わせて記述する。

「9月の電話部門はIARU Field Day SSB とバッティングしてEU 圏の参加局が少なく、48時間の運用が辛い」が本意見募集の契機と理解する。しかし、「48時間の運用が辛い」というのはどの層からの意見なのか、そしてそれがどれぐらいの数があったかも明らかにすべきであり、実情を理解しないまま意見を募集して変更するとなればAAに参加したことがないにも関わらず意見するような方に「大変そうだから」等のバイアスがかかり、改悪ともなりかねないことを最初に意見したい。

次にポイントおよびマルチプレイヤーを含むルール変更の理由を説明する。DXコンテストのうち大陸ベースのコンテスト(例えばARRL International DXやWAEDC等)は北米-その他、ヨーロッパ-その他という構図である。物理的な大陸の広がりについて北米あるいはヨーロッパとアジアのそれとを比較するとポイント計算のベースをQSOした局間の距離とするよう根本的に変更すべきと考える。これをベースとすることでアジアの西の端の地域がヨーロッパに接しているという地理的優位性を平滑化し、上位入賞するためのアジア内での地域差(特に東西)の不公平感を小さくできると考える。また、マルチプレイヤーをグリッドロケータとすることで局所的に多数のエンティティが存在するヨーロッパに近い西アジア地域との不公平感も小さくできると考える。

そしてCW/Phoneに限らず、AAでは実際には少なくない国内局から呼ばれる。都度"NO JA"等として無意味なQSOをしないようにしてはいるが、前述のポイント計算方式とすることで多数の国内局とQSOしたとしても相当数QSOしない限り上位になれない仕組みが担保できると考える。

前述のルールにともなってコンテストナンバーは4桁のグリッドロケータとなる。現状のAAで使われるコンテストナンバーは参加している局の年齢層を垣間見ることがある程度可能な面はあるものの、AAのコンテストナンバーを理解していない局からはシリアルナンバーやCQゾーンナンバー等が送られるのが実情。コンテスト参加者は相手から説明を求められない限り、年齢ではないナンバーと推しはかって相手局に訂正依頼あるいは、説明しなければならぬ義務はなく、私自身は送られてきたものをそのままログに記載している。AAでは聞いた通りのログで良いという点については過去JARLのコンテスト委員長からそのように直接説明を受けたが、このような状況を鑑みても現状のコンテストナンバーにはポイントやマルチプライヤー計算に関連する情報たり得ない。AAのコンテストナンバーは年齢相当という興味深い情報ではあるが、現状で他にも年齢を送るというコンテストはあるためユニークではない。

48時間が長いという声への案として、例えばCQ WWやCQ WPXのようにオーバーレイという形態で24時間での参加も認めることで対応可能であり、参加するシングルオペの局に対して一律に時間制限を設ける必要はないと考える。そしてコンディションさえ良ければ48時間の長丁場の局数の積み上げは可能である。加えて国内とのQSOもポイントになることでやり尽くしてしまう状況はかなり少なくなるとも考える。また、前述のような24時間しか出ない局とのQSOを考慮すると、時間制限することでこれらの局とのQSOの機会を奪い取ることも合わせて指摘しておく。

前述のルールとすることでそれぞれのモードでのQSOの機会は向上するはずであり、CWとPhoneを混在させての同時期の開催の必要はないと考える。仮にCWとPhoneを混在させると時期的に近い開催となるIARU HF Championshipの例でも明らかのようにCWでのQSOの比重が高くなるのが想定され、PhoneでのQSO数は現状よりさらに少なくなると予想される。

JARLとしてAAのプロモーションはせいぜいJARLニュースあるいはメルマガ程度で、いずれもJARL会員向けである。世界的にメジャーなコンテストとは言えないコンテストは主催者が積極的にプロモートする活動をすべきと考えるし、いくつかのDXコンテストでそのような活動が実施されている。私見ではあるが、過去5年間程度の国内外の全参加者に対して開催の一ヶ月前に参加を促す旨のアナウンスのメールを送付すべきと考える。このようなプロモーション活動の欠如が参加局のアクティビティを下げ、結果的にIARU Reg.1のフィールドデーの同時期開催の一因となった可能性も指摘しておきたい。

また、JARL主催だからJARL会員を優遇する(国内局はJARL会員なら対象局に賞状を郵送)という対応の撤廃を望む。一部の海外コンテストでは入賞にかかわらずコンテストの参加賞の意味も込めたPDFをダウンロードできるようになっているが、これで十分であり賞状の郵送は不要。この方式にすることで郵送費を抑え、同時にJARL会員かどうかの区別も不要となる。

AA以外のJARL主催のコンテストではLCR(ログチェックリポート)がログ提出局に送付されているが、これまでAAでは送付されていなかった。AAだから不可という理由もなく、同様にLCRの送付を検討いただきたい。また、ログを公開することで参加局が次回参加時の戦略等を検討するために有用となるため、参加局のそれぞれのログの公開も強く要望する。

最後にAA以外のコンテストでの海外局の参加を認めるように強く要望する。特にAll JAは4月の最終週末という海外へのコンディションにも恵まれた時期でもあり、国内局だけのコンテストで占有するのは時代遅れの内向き志向である。そして日本のアマチュア局の減少傾向からしても国内のみのコンテストのままとするといずれ立ち行かなくなることは想像に難くない。現状で他国

のメジャーなコンテストは同時開催されてはいないが、AA Phoneの二の舞を避けるためにも海外局の参加を認めるよう強く要望する。海外局が参加できないコンテストは近隣諸国からすると迷惑以外のなにものでもなく、このまま海外局を認めないのであればHF帯の最高出力を5W程度に制限し、近隣国への影響を少なくすることを望む。海外局参加については何年も前からJARLコンテスト係に適宜提案し続けているが、関係者に伝えるとの返答ばかりで何の進展も見られない。今回のようにAAのことを検討する前にこちらを先に何とかすべきと考える。

以上

1. 提出日：2024年 7月22日
2. コールサインまたはSWLナンバー：JK1JHU
3. 氏名：—
4. ⑥その他のプラン

「9月の電話部門は廃止して、代わりとなり引き継ぐ新たなコンテストを開催する。」

以下、その趣旨の説明として下記⑦自由記述とします。

私はAAは電信ばかりで電話にはほとんど参加したことがありません。何故私が電話に参加しないのかですが、SSBでのDX QSOは並のアンテナにローパワーではかなりハードルが高く、大してできないのでつまらないからです。CWであれば、まだ呼ばれる可能性があります、SSBではまず無理です。DX局がASIA方向にANTを向けてくれているため、他のDXコンテストより信号が強く感じられ、CWではDXから呼ばれる楽しみを少しは得られますが、SSBではまず困難です。

極東に位置するJAからSSBでDXに十分に飛ばすことはなかなか難しく、FBな環境にある局が少ないという根本的な要因が、参加者が少ないことのベースにあるのだと推測します。

JAからの参加局が少なければ、ASIA外の局は局数が伸びず結果不人気につながります。

QSO内容詳細は不明ですが、5B4AIFがシングルオペで3,510QSOしています。ほぼEU相手ではないかと思えます。

それなりにアジア外に飛ばせれば、他のコンテストと重なっているなど理由ではなく、相当数のQSOが可能だということです。

つまり、AAの電話でQSOが少なく、結果参加局数も少ないのは、JAからSSBでEUや東海岸まで十分に飛ばせる設備を持つ局が相対的に少なく、極東からPHのみのコンテストを開催すること自体に限界があり、昨今その傾向が強まっていると言えるのだと考えます。

さて、変更案として提案されているものについては、どれも賛同し難いです。

電信と電話を同時に開催するというのは、参加者をそれぞれ減らす可能性があります。

2023年のAAの電信と電話の両方に参加したJA局は、204局います。電話の参加局379局が、電信に流れたら $379-204=175$ 局になる可能性があるという計算になります。

また、シングルオペを36時間参加にするということは、参加局の分散につながり、QSOは減る方向の施策です。つまり、提案されている選択肢のままでは、総参加局数もQSO数も減らすだけの提案になっていて、全く発展的ではなく、賛成できる選択肢がありません。

まず施策に対する根本的な考え方の姿勢として、「コンテストの参加者を増やし、アマチュア無線を盛り上げよう」という視点が感じられません。

過去にも、フィールドデーは暑いから？と、開催時刻を変更して、また元に戻すなどしていますが、同様にコンテスト時間が長いからと言われて、短く統合するだけの提案しかない点に、物足りなさを否めません。AA電信と電話を統合開催するという案の場合、コンテストを一つ減らすということなのでしょうか？

先に記述しましたが、EUまでSSBで有効に飛ばすには、コンディションもさることながら、一定以上の設備が必要で、昨今の取り巻く状況変化から限られた局にしか実現できない難しいものになっています。よって、AA PHの代わりとなる、別のコンテストを開催することを提案します。

新たなコンテストのアイディアは様々考えられるかと思えます。一つの案として、AAを踏襲しつつ、より多くの参加局が見込める案を提示します。

昨今BY、YBの局数が増加しています。AAPHのログ提出数を見ても突出しています。

(JA=390局、YB=133局、BY=45局、UA0=29局、DU=26局、9M2=16局、HS=15局)

東南アジア諸国のエリア等がマルチになり、WやEUからビームが向く新たなコンテストの開催が参加局数を増やすことになり、また、近隣諸国とのリレーションも図れるのではないかと考えます。国内QSOもOKとすることで、今までDXコンテストに参加していなかった局にもDXコンテストになじんでもらうきっかけにもなろうかと考えます。

国内とDX、特に近隣諸国を混ぜ込んだコンテストを、AAPHの発展形として開催することを提案します。細かな規約は改めて精査するとして、大枠の考え方のみ下記に示します。

日時：9月第1週末土曜日 15:00JST～日曜15:00JSTの24H

周波数：1.8～28MHz

部門：電信電話MIXのみ 各バンド、オールバンド、MS、M/M

ポイント：同一エンティティ1点 別エンティティ3点

同一バンドで電信と電話2回QS0 OK

アジア以外の局はアジアとのQS0のみカウント

マルチ：都道府県、BY, YBエリア+ α 、ASIA+OCEANIA一部のDXCC、CQZONE

ナンバー：JA:RS(T)+県NR、DX:RS(T)+CQZONE

国内同士もOKで、アジア近隣でマルチが稼げるコンテストであれば、小規模設備でもある程度楽しみ、裾野が広がるのではないかと趣旨です。この内容に限らず、進歩的なコンテスト運営を期待します。

以上